

學界近況

左の書信は目下獨逸ライプチヒに研學せらるゝ千葉助教授より最近大脳文學士に宛て、寄せられし書信の一部である。此度本誌のため同文學士に乞ふて出すこととした。

マールブルヒの心理學大會より 前略。四月十九日

より二十三日迄 マールブルヒに於て戰後最初の心理學大會有之ミ ユラー教授に會員として出席の事 願出候處快く容れられウキルト、クレム兩教授と共に同地に赴きミユラー老教授を始め、シユーマン、マルベ、アツハ、ステルリング、シユテルン、ベツヘル、ビユラー等 多數の大家作家と相識るの機を得申候、講演數五十有餘四日間(最初の日はクリューセン、アーベント)にて大車輪にて演了(二十二日には大學に於ける應用心理學の地位につき長時の論戰有 候)最後の二十三日の午後には會員一同にて 郊外なるハンセンハウス方面に散策を試み約二時間許 或は谷に森に三々五々閑談に耽り和氣霽々たる間に散會南ステーションのほゞりにて夕日をあびながら別れを惜み候光景無限の感にうたれ候、聯合國側よりは小生一人にて候ひしが 聯合國の學者の態度を頗み氣恥かしく感じ申候講演はさすが應用方面多數に候ひしが理論的方面にも劣らず新意見を發表せられ獨逸心理學は學ぶ所多きを思はしめ候 尤も大なる將來を有するビユラー、ベツヘル等の卓見を聞くを得ざりしは遺憾に候ひしも(ビユラー氏は目下ドレスデンにあり)七十二歳の高齡を以てして壇上に獅子吼し壯者と共に

森や野に二時間も健歩を連げしミユラー老教授の元氣には全く驚かされ申し候シユトウンプ、チーエンの兩教授は病の故を以て缺席致され候。

當地大學にて特別に研究の便宜を與へられ候に付小生は暫く當地にて研究生活を味ひ申度と存居候、シユーマン教授とは以前より文通致し居候關係より特に是非フランカフルトに來學すべしと頼りに勤められ候に付同地にも暫く滯留任度 視察見物は短時日にて出來可申兩地に在留する間研究の都合よき折に機を見て、用かくる考に有之候。

最早五月に入り候も戸外はなほ風寒く候、併し野外にはフィンク啼きレルへ鳴り櫻花色あせ已に春の老いたるを示し申候昨日は約一時間東北のク羅斯ボーテンに故ザント教授の宅を訪ね故教授の書齋にてザント嬢と約二時間閑談の機を得申候 二個の書架を充せる 故教授一生の述作門弟子の著書その學生時代に學びしといふアノルドの解剖書及講義の草稿等を觀て故教授がこゝに毎日晝瞑想に耽り餘生を送られ 遂に永遠の眠りに入りしとまを偲び日暮るゝ頃茶府に歸り申候下略。

彙報

新著紹介

哲學會例會

五月三十日午後六時より學生集會場に於て新入學生の歡迎河瀨文學士の送別を兼ねて例會を開く、波多野西田朝永田邊の諸博士其他約三十名來會、左の講演あり

Rickert : Philosophie des Lebens

文學士 河瀨 憲次君

心理學讀書界

六月二十日心理學實驗室に於て左の講演を行へり、野上教授黒田岩井務臺其他學生多數參會、

K. Bühler : Uber Gedanken

文學士 大脇 穠一君

倫理學會

七月一日午後六時半より學生集會場に於て次の講演を開催す
マルクスの理想社會 經濟部教授 河上 博士

二程子の哲學

宇野哲人博士著

東京大學に於ける支那哲學史家の重鎮として且つは最近「洙泗源流考」といふ論文の提出により光榮の博士號を贏ち得たる宇野博士の名に於て「二程子の哲學」が出版せられたと聞き心懸に大なる期待を以て此の書に面した、然し此書の序文を讀んで此書が著者の文科大學卒業の際、井上哲次郎博士の「東洋哲學史」の修了試験に應ずるため作つたものを嘗つて井上博士の勸奨により哲學叢書にも收めたものを昨年末又書肆の勸奨によつて只魯魚の誤を正すだけにして出版したことを知つて大なりし期待は裏切られて讀まうとする興味の大部分の失はれたのを感じた。讀つて考へると此書は宇野博士に取つては出世作さといふべく之によつて博士の才能が認められ、今日あるを致した紀念すべき勞作であると共に約二十年前の博士の氣鏡を偲ぶに足るものであるから、茲に更に勇氣を喚起し敬意を以つて此書を讀了し其の内容の一斑を紹介することにした。

此書は序論。明道程子の哲學。伊川程子の哲學。結論(二程子の比較及其影響)より成立つて居る。序論に於て博士は一般哲學の起源に筆を起し東洋哲學研究の必要なる所以を論じ、西洋哲學史と支那哲學史との比較をなし、更に進んで支那哲學史を一、上代(先秦)二、中古(漢魏六朝唐)三、近世(宋以後)の三期に區分して各時代の哲學の主潮と先後の思想の論理的關係を概括的に敘述し